

ぶな

2022年9月号

NO.522



滋賀県勤労者山岳連盟 比良雪稜会

巻頭言

ホモ・サピエンスとは？

N野

我々人類ホモ・サピエンスとはいったい何者なのだろうか？ という疑問を抱いて、ユヴァル・ノア・ハラリ著「サピエンス全史」上下巻を読み切った。

現生人類と非常によく似た動物が初めて姿を現したのは、およそ250万年前のことである。その後、200万年前に人類がアフリカ大陸からユーラシア大陸へ拡がり、異なる人類種が進化した。20万年前に東アフリカでホモ・サピエンスが進化し、およそ7万年前に「取るに足りない動物」であったホモ・サピエンスは文化を形成し始めた。この人間文化のその後の発展を「歴史」と言う。歴史は三つの重要な革命で決められた。約7万年前に歴史を始動させた認知革命、約1万2000年前に歴史の流れを加速させた農業革命、そしてわずか500年前に始まった科学革命である。認知革命では、想像力により架空の事物について語れるようになった。農業革命では、農耕によって人の数が爆発的に増加し、ホモ・サピエンスは定住し始めた。この動きを速める原動力になったのが貨幣と帝国と宗教であり、その内貨幣が最も普遍的で効率的な相互信頼の制度であった。科学革命では、ホモ・サピエンスが自らの無知を認めることにより存欲に知識を求めて行った。歴史を動かすエンジンに例えると、政治と経済の機関が資源を提供して、そのお返しとして科学研究が新しい力を提供して進歩した。

ホモ・サピエンスはあらゆる生物のうちで、最も多くの動植物種を絶滅に追い込んだ、生物史上最も危険な種なのだ。私たち以外の人類種のネアンデルタール人やホモ・ルドルフェンシス、ホモ・エレクトスなどもホモ・サピエンスが直接あるいは間接的に絶滅に追い込んだ可能性がある。また、家畜化されて不自由で短い生涯を送っているニワトリや豚や牛たち動物の幸福度の観点から見ると、ホモ・サピエンスの歴史は惨事の連続となる。

ホモ・サピエンス自身はかつてないほどの数に増えており、生物種としては大成功であるが本当に幸福が増したのだろうか？暮らしの質は狩猟採集時代より落ちて、未来への不安も招いた。また、地球温暖化や広範な汚染で自らの生息環境を悪化させた。但し、近代に入って小児死亡率は大幅に低下し、大規模な飢饉も一掃された。国家間の武力紛争は減少しており、戦争も採算が合わずあまり行われていない現状だ。

ホモ・サピエンスは今後、どのような世界に向かおうとしているのか？ホモ・サピエンスは自然選択の法則を打ち破り、生物学的に定められた限界を突破し始めている。その結果、ホモ・サピエンスは特異点に至り、テクノロジーや組織の変化だけでなく、人間の意識と独自性の根本的な変化も起こる段階に到達するだろう。

<目 次>

巻頭言	1
目 次	2
【例会山行案内】	
・ 鳶岩・牛山・写真展 (9月11日)	3
・ ちょこっとシリーズ 行市山 (9月25日)	4
・ 鈴鹿 県境稜線を往く④ 安楽越～臼杵ヶ岳～832m峰 (10月2日)	5
・ 丹沢山と大菩薩嶺 (10月8日・9日・10日)	6
【お知らせ】	
・ 比良雪稜会 山と自然の写真展 のお知らせ	7
【講座報告】	
・ 夏原グラント環境講座 (7月30日)	8
【個人山行報告】	
・ 南アルプス/白峰三山縦走 (7月16～19日)	9～11
・ 初級登山教室報告 八淵の滝沢登り講習(7月23日)	12～15
・ 北海道/大雪旭岳・羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳 (8月4～9日)	16～20
・ 北アルプス/烏帽子岳～針ノ木岳 縦走 (8月13～16日)	21～23
【定例会報告】	
・ 第4回リーダー一部会 (8月9日)	24
・ 9月予定表	25

＝ 表紙の写真 ＝

農鳥岳のドラム缶

2022. 7 撮影：K嶋氏

<例会山行案内>

鳶岩・牛山・写真展

比良山系牛山の南東先にびわ湖側へ張り出した大きな岩があります。鳶岩と呼ばれている岩で眼下にびわ湖が望める展望の良い場所です。

牛山の頂上を踏み早めに下山、15時頃の一むぶな駐車場で解散します。

比良雪稜会写真展が開催されていますのでなつかしい例会写真等鑑賞しましょう。

日程 9月11日(日)

集合：和邇川河川敷駐車場 8:00

コース：和邇川河川敷駐車場 8:00＝比良げんき村 8:45～滝山登山口 9:00～分岐 10:00
～トラバース道出合 10:30～鳶岩 11:00(昼食)～牛山 12:00～滝山道出合 12:45
～滝山登山口 13:45～比良げんき村 14:00＝一むぶな(解散) 15:00 比良雪
稜会写真展自由見学

難易度：体力★★☆☆☆ 技術★★★★☆☆

装備：弁当・飲み物・雨具・行動食・非常食・防寒着・手袋・地図・
その他日帰り登山装備

申込先 H島

締切日 9月5日(月)

中止：前日9時の予報で降雨・強風の場合は中止にします。この場合、正午(12:00)までに連絡します。

<例会山行案内>

ちょこっとシリーズ

行市山 660m

3連休ですが地元にいる方、ちょこっとしましょう。湖北余呉湖の北にある戦国時代の砦がたくさんあった歴史の山です。のんびりとロマンに浸りながら歩きましょう！

帰りは、東尾根(廃路になっている模様)又は南尾根(登山道なし)を下りますので、読図が必要です。

日程 9月25日(日)

集合 和邇河川敷 7:30

コース

和邇河川敷 7:30＝毛受兄弟墓 9:15～林谷山～中谷山～別所山
～12:00 行市山～(東尾根又は南尾根)～林道出合～中谷山～15:10 毛受兄弟墓
＝17:00 和邇河川敷

☆車を出せる方、ご協力お願いします。

☆和邇駅への迎えが必要な方は、お知らせください。

☆新型コロナウイルス感染対策、各自よろしくお願いします。

レベル 体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆

持ち物 水、昼食、非常食、地図、磁石、雨具、ヘッドライト、
マスク、消毒薬、その他日帰り装備

申込み先 K藤

締め切り 9月19日(月)

<例会山行案内>

鈴鹿 県境稜線を往く④

安楽越～臼杵ヶ岳～832m峰

御所平は鈴鹿の山並みが一望できる素晴らしい高原です。さらに、832m峰から次の 832m峰（ヨコネ）までの北東に伸びる尾根は伊勢湾・琵琶湖の両方面が見える展望の良い場所が続きます。ロングコースですが鈴鹿県境稜線をつないでいきましょう。

日程 10月2日（日）

集合：堅田駅 6:00

コース：堅田駅 6:00＝米プラザ 6:05＝安楽越 8:00～臼杵ヶ岳 9:00～御所平 11:22～
832m峰 12:22～臼杵ヶ岳 15:32～安楽越 16:15＝道の駅あいの土山 16:30(解散)

難易度：体力★★★★☆ 技術★★★★☆☆

装備：弁当・飲み物・雨具・行動食・非常食・手袋・地図・ヘッドライト
その他日帰り登山装備

申込先 H島

締切日 9月26日（月）

中止：前日 9 時の予報で降雨・強風の場合は中止にします。この場合、正午（12:00）までに連絡します。

<例会山行案内>

丹沢山と大菩薩嶺

(1567m) (2057m)

秋の連休を利用して関東にある百名山2座に登りに行きませんか。
両山とも富士山の展望が素晴らしいそうです。丹沢山は5年前の関東例会では主脈を縦走されていますが、今回は時間の関係でピストンします。結構名高い大倉尾根(通称バカ尾根)で塔ノ岳まで登り山頂にある山小屋で泊まります。2日目に丹沢山を登頂後同じルートで下山予定(別ルートも検討)。その後で大菩薩の登山口まで移動して山小屋泊。3日目に大菩薩峠と大菩薩嶺を周回します。

日時 2022年10月8日(土)～9日(日)～10日(祝)

集合 和邇河川敷駐車場 8日午前5時 (JRの方は相談します)

行程

8日 秦野戸川公園駐車場～大倉登山口～堀山の家～塔ノ岳(尊仏山荘宿泊)

10:30 11:00 13:30 16:00

9日 尊仏山荘～丹沢山～塔ノ岳～堀山の家～大倉登山口～駐車場→車→

6:00 8:20 10:00 11:30～12:00 13:30 14:00

大菩薩登山口(上日川峠)へ移動 ロッジ長兵衛宿泊(風呂あり)

16:30

10日 ロッジ長兵衛～大菩薩峠～大菩薩嶺～上日川峠駐車場→帰滋

6:30 8:00 9:30 11:00 18:00 ごろ

レベル: 丹沢山★★★(約19km) 大菩薩嶺★★(約8km)

持ち物 通常の日帰り装備一式(ヘッドランプ・雨具・防寒具・マスクなど)

担当 N尾

締切 8月31日(水) 山小屋宿泊予約の都合で定員を8名としていますのでお早めに。申込者が多ければ新たに宿泊予約を申し込みますが取れなければキャンセル待ちとします。申込が少なければ9月10日まで延長します。またコロナの感染状況に寄り中止する場合がありますがその場合は9月末日までに連絡します。

雨天中止 中止する場合は前々日の10月6日(木)までに連絡します。

比良雪稜会 山と自然の写真展のお知らせ

写真展実行委員会

開催日時 9月8日(木)～13日(火) 10:00～17:00

場 所 喫茶&ギャラリー「るーむぶな」

大津市和邇今宿 800-1 (会事務所のすぐ近く)

電話：077-594-3573

展示写真 ・ 会員のお気に入り写真 30点程度
県内外の山行及び海外トレッキングにおける力作です。

・ 懐かしの例会写真 30点程度

何かとご多忙と思いますが、ぜひご観覧ください。
思い出話に花を咲かせれば・・・ と思います。



<講座報告>

夏原グラント環境講座の報告

N野

夏原グラント環境講座が2022年7月30日（土）にピアザ淡海滋賀県立県民交流センターで開催され、中野と近藤氏が参加した。「効果的な活動のために」と題して、NPO法人きょうとNPOセンターの内田香奈副統括責任者が講演された。

NPO法人きょうとNPOセンターに関する説明があつてから、4～5人ずつに分かれて各自の団体名と名前、団体の活動がめざすこと、あなたはなぜ、その活動に参加しているのか？、団体の活動内容 以上について3分間位で説明してグループでディスカッションを行った。

次いで内田先生の講演があつた。内容は以下の通りです。

1) めざす姿と活動について

①事業も大事、団体運営も大事

②めざす姿（ビジョン）とやるべきこと（ミッション）

2) 自立とは？

①自立とは、どういう状態をさしているのか？

助成期間終了後に自分で出来るようになること。

②自立に関して

- ・めざす姿の実現や目標達成に必要な関係性を新たに作ったり、強化する為の工夫や試みが出来るようになること。
- ・今直面している運営上の課題を改善、解消するための工夫や試みをするための協力者がいること。
- ・目的達成のために、自前のできるものと自前ではできないことも良く理解しておくことが必要。

再度、4～5人のグループを作って、活動の中でうまくいっていること、その理由や要因、活動の中で困っていること、その原因や理由は？ について3分位で説明してディスカッションを行った。

最後に内田先生からの講義で、ビジョン実現のための協力関係の作り方や、目的やしたいことが違う団体とも協力できることの話があつた。

助成金はもらうものではなく、託されるものである。助成を受けた結果、どうなったかについて助成団体への報告と同時に、団体のウェブサイトやSNSなどで広く報告することも大切との話があつた。

<個人山行報告>

南アルプス／白峰三山縦走

日 程：2022年7月16日～19日

参加者：CL:K 嶋(写真)、S 水(記録・食担)

行 程：

7/16 大津出発 0:30～名神・新名神・中部横断道下部温泉早川 IC～奈良田バス停駐車場
6:30～8:40～広河原 9:25～10:00～白根御池小屋 13:35(幕営)

7/17 白根御池小屋 6:25(草スベリ)～小太郎尾根分岐 9:30～北岳肩ノ小屋 10:20～11:10
～両俣小屋分岐 11:30～北岳 12:00～15～吊尾根分岐 12:40～北岳山荘 13:45(幕営)

7/18 北岳山荘 5:25～中白根山 6:05～間ノ岳 7:35～55～農鳥小屋 9:10～40～西農鳥岳
10:50～農鳥岳 12:00～20～大門沢下降点 12:20～30～大門沢小屋 17:35(幕営)

7/19 大門沢小屋 7:15～吊橋 10:30～大門沢登山道入口 10:55～奈良田バス停駐車場
12:10～奈良田温泉入浴・白幡史郎記念館見学後帰滋

比良雪陵会入会申込書の登りたい山に書いた北岳・間ノ岳・農鳥岳の縦走。やっとチャレンジする機会に恵まれた。テント泊での3泊4日。夜中に移動したので初日は広河原から白根御池小屋までの短い行程。曇り空だったが到着してテント設営すると同時に雨がザーザー。この日は夕食、朝食ともに小屋で予約していたのでラッキーだった。

2日目、明け方まで降っていた雨もやみ、北岳目指して出発。テントの濡れや、食材の重さに草すべりの急登が堪える。途中、きれいなお花畑が続くが、ゆっくり楽しむ余裕がない。それでも一瞬の晴れ間から富士山の雄姿が見られ元気をもらって肩の小屋まで到着。美味しいおでんを食べてパワーをもらい、いざ出発…ところが急な雨に降られ、慌ててレインウエアを着こむことに。小雨の中、急登を登り、やっと北岳に登頂。

3年越しの夢が叶い“やったあ” 展望はなく残念だったけどついに憧れの北岳に登ることができた。今日のテン場は北岳山荘。山荘自体は改修中で宿泊はテントのみ。テントを設営して今日はカレー。食事をして外へ出ると、なんと北岳山荘の屋根越しに富士山の姿。めっちゃ壮大でウルウル…。ずっとガスっていたので景色は望めないと思いきらめていたので、思いがけないご褒美となった。沈む太陽を見ながらまたまた感激。

「今日も一日ありがとうございました。明日も頑張ります！」3日目、朝から強風。今日は大門沢小屋までの長丁場。強風に煽られながらも間ノ岳に無事登頂。農鳥小屋まで下って小休止。名物のドラム缶、そしておじさんにもお目にかかることができた。話題のトイレも経験して西農鳥岳に向かう登り、そこからの風は先ほどとは比べ物にな

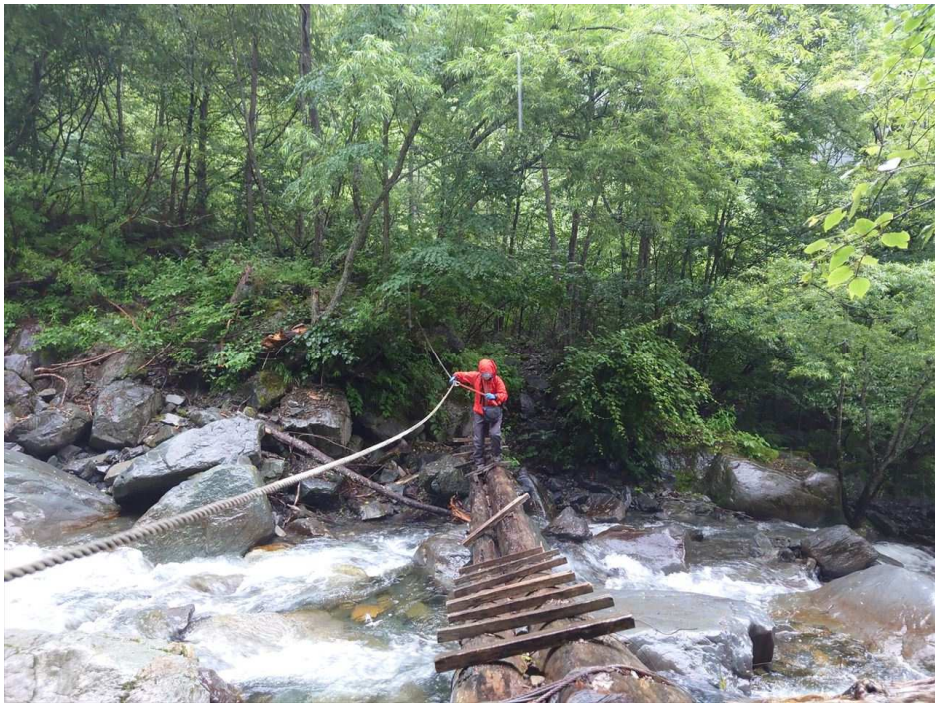
らない位の爆風状態。那須で経験した強風も前に進めず怖かったけれど、距離が長かったのもそれ以上に感じた。何度も体を持っていかれそうになりながら、ひたすら進み何とか西農鳥岳登頂。荷物が重いこともあり、なかなかペースも上がらない中、少しずつ歩を進めてようやく農鳥岳に到着。山頂には誰もいなくて独占状態。すると何故かいきなり風もやんで、晴れ間も出てきた。ラッキー！！写真を撮ったり行動食を摂ったりしてテンションUP。しばらくは緩やかな風だったが大門沢下降点を目指すとまたまた強風が吹き始め、試練の連続。小屋までの下りは長く厳しく行けども行けども進まない。二人ともバテバテになりテン場に着いたのは17時30分を過ぎて12時間行動。周りは食事も終えて、そろそろ休もうかという時間。1200メートルの下り、恐るべし。ラーメンを食べて早々に爆睡。ここのトイレもなかなか怖かった。最終日、今日は奈良田に降りるだけ…とゆっくり目に朝食をとっていたら、またもや雨。雨の中のテント撤収となった。出発後、いきなり朽ちた丸太橋。雨の影響で沢の水量も半端なくゴーゴーと波打っている。落ちたら大変だし、渡らないと帰れない…。荷物を持ってもらって、不安定なロープを支えに何とか渡る。すぐに次の橋。これもかなりの角度。ロープにカラビナをかけスリングを持ちながら何とか通過。その後も何度か橋を渡り怖い思いをしながら奈良田に着いたときはホッとした。白峰三山縦走、3000メートル級のお山はなかなかハードでいろんな体験ができた。下山後、奈良田温泉でつるつるの美肌になった後、白旗史郎記念館に行って素晴らしい写真を堪能。その迫力にまたまたウルウル。長くてしんどくて、でも感動と充実の4日間だった。リーダー、いっぱい支えてもらってありがとうございました。またよろしくお願いします。

<一口感想>

歩荷トレどうする？GWに横尾までと登山教室で八雲ヶ原まで担いだし、もうエエやん！っで、ぶっつけ本番で白峰三山テント泊縦走に挑んだ(笑)4年前に例会で歩いた時より気象条件も悪く、また自身の体力低下もあるのか、それともトレーニング不足なのか、今回の白峰三山縦走は中々ハードだった。特に農鳥小屋から西農鳥岳へ向かう間に吹いた風は、冬山でも経験した事の無い爆風で、何度も身体を煽られて前に進むのが大変だった。そして最終日の下山も雨に濡れて朽ちた、今にも落ちそうな丸太の橋…。見た瞬間、思わず笑ってしまった。ウーんこれを渡るのか…。同じ山でも登る度に毎回違った経験をさせてくれる。今回も楽しく充実した山行となり、二人の無事の下山、ホント感謝の気持ちで一杯です！ありがとう！(K嶋)



農鳥岳山頂で



濡れて朽ちた丸太橋

<初級登山教室報告>

八淵の滝沢登り講習 報告

【日 時】2022年7月23日(土)

【講師・スタッフ】

T内(彷徨倶楽部) N森(彷徨倶楽部) M田(湖南岳友会) K嶋(比良雪稜会) K口(滋賀山友会)

【受講生】

S水(比良雪稜会) N村(比良雪稜会) S藤(比良雪稜会) S口(滋賀山友会) T本(滋賀山友会)

【講習の目的】沢登り入門

【行 程】

9:10 ガリバー旅行村駐車場着~9:30 駐車場出発~9:40 林道終点登山道入口
~10:10 入渓点で打ち合わせ・衣服調整(10分休憩)~10:20 遡行開始~10:55
魚止めの滝~11:10 唐戸(空戸)の滝、クサリとはしごの巻き道~11:30 ワサビ
谷分岐(25分昼食休憩)~12:00 大すり鉢からのシャワークライミング(ロープを
出す)~12:35 貴船の滝左岸巻き道、ステップとはしごを登る~12:45 貴船の滝
上部(5分休憩)~13:40 七遍返しの滝~14:14 オガサカ分岐手前で登山道に上
がり下山開始~14:55 貴船の滝(巻き道を下降)~15:50 駐車場到着、着替え等
~16:15 反省会・解散

【報 告】

梅雨の戻りのような不安定な天気だったが、雨はほとんど降らなかったため八池谷(八淵の滝)の沢登り講習を実施した。400円の駐車料を払ってガリバー駐車場に車を止め、ハーネスやヘルメットを着用して入渓点をめざす。砂防ダムの上部の入渓点で靴や衣服の調整をして、打ち合わせ。滑りやすい岩の上や川の中の足場などをよく確かめて遡行することなどの注意を受けてから出発した。最初の滝魚止めの滝は左岸の大きな岩の間を登って進んだ。続く唐戸の滝は右岸を大きく巻いて登山道から再び溪流に戻り、左岸から大きな岩が崩れている溪流を進み、その上の滝を大きく巻く鎖場を登った。ステップやクサリがあったもののやや高度感のある場所で緊張して臨んだ。大摺鉢を越えた所で昼食休憩をとり、午後からは八淵の滝の下からシャワークライミング。ロープを出して確保しながらの滝登りで滝の流れを全身で受け止めながらの楽しい遡行を経験した。そのあたりから濡れた体に風が吹いてきて、少し寒さを感じながら順番を待つことになった。さらに登山道を進んでいくと貴船の滝。落差30

メートルはある大きな滝の左岸をクサリやステップを使いながら登っていく。滝のしぶきが周囲に広がって清涼感あふれるスポットになっており、滝の頭のすぐ横で休憩をした。貴船の滝の上部からまた溪谷に入り、岩の間を流れる小滝を登ったり、大きな岩の横をよじ登ったり、重なった岩の下をくぐり抜けたりと様々な体験をすることができた。沢登りは七遍返しの滝を過ぎたチョックストーン滝のあたりで終了し、登山道を下山して、16時前に駐車場に到着、着替えやトイレを済ませて反省会を行なった。受講生からは、やや緊張しながらも変化に富んだ八淵の滝での沢登りの楽しい経験が出されるなど時宜を得た初級沢登り講習の企画だった。

【一口感想】

沢登り入門とは言え、今日の八淵の滝遡行は水量が多く、厳しいものがありました。私も、最初に取り付きを> 間違い皆さんに迷惑をかけました。七遍返しの滝の少し上で終了しましたが開始時間が遅く予定地点まで行けませんでした。改善を要する点は集合時間を早める、準備をスムーズにするとか（自分自身が遅かったので反省）1回では消化不良でせめて> 2回位は実施する等々あると思います。足元が悪かったですが滑落など事故無く終了できたのでほっとしています。参加者の皆さんには次回の岩登りにつなげればと期待しています。 (T内)

沢登りは暑い時期に最適ですが、ゲレンデクライミングのようにシステムで緻密に安全を確保されているというよりは、遡行者の技術的な確信に依存している部分が多く、沢の状況そのものも頻繁に変化しますので、楽観的予測を元に行動すると進退窮まることになりかねません。水流や河床の状態をよく見て「ここまでは行ける」と確実に判断できる目を養うことと、「もしここで落ちたらどうなるか？」を常に考えるようにすること、適切な撤退判断が下せることが重要だろうと思います。僕自身への自戒も込めてですが、リスクと隣り合わせであることを十分に意識しながら楽しんでいただければと思います。次の機会があれば今度は広谷まで遡ってみたいですね。 (N森)

座学から実技まで、時間的な余裕がなかったのですが、皆さんの装備は完璧でした。沢の状況は濁りはなく、水量が少し多い状況で安心しました。蛭の被害も少なく、皆様お疲れさまでした。 (M田)

当日は、気温も上がらず、水量も多めと絶好の沢日和では有りませんでした、一

年ぶりの沢は楽しかったですね。受講生の皆さんも一度と言わず何度か挑戦して欲しいです。その中から、手や足のさばき方、ルートの取り方など勉強してもらえればと思います。

(K 口)

夏はやっぱり沢登りやネ！と言うには少し寒かったですが、一年に一回のペースでしか歩いてないですが、とても楽しく歩けました。当会から参加の受講生3名は多分、初沢登りだったと思います。これを機会に会でも例会で実施出来れば良いなと思っています。ありがとうございました。

(K 嶋)

沢登りというだけでハードルが高く、不安でドキドキしていたが、水の中に入ってみると思ったより冷たさを感じることもなく、濡れても大丈夫！なことがわかると楽しく登ることができた。どこから登っていけばいいか教えていただきながら、どんどん進んでいくのは楽しく、今までの岩の経験も生かしているのかなと思った。今回、水量が多かったが、水の量によっても活動内容が変わっていくだろう。「沢は危険が伴う」と教えていただいた通り、安全には十分気を付けないといけないが、また沢登りをする機会が持てるといいなと思った。いろいろとお世話になりありがとうございました。

(S 水)

初めての沢登り、実は、前日まで怖くて不安でした。そして、迎えた当日。沢での歩き方・歩くコースを丁寧に教えて頂きながら進むことができたので、いつの間にか沢の中が楽しくなっていました。また、登ることが難しい難所には、ロープを使って登る体験もさせてもらいました。また、手掛かり足がかりのない岩穴の中から上がれない時、屈強な山男お二人が、岩穴の私をスリング二本を使っていとも簡単に引き上げられたのにはビックリ！ここ何十年以来の驚きでした。沢登りというなかなか出来ない凄いことを体験させて頂きました。講師さん、スタッフさん、受講生の皆さん、本当に有難うございました。

(S 藤)

沢登りの経験がなかったので、緊張しながらの参加でした。思ったより深く倒れそうになったり、どうやって岩を超えたらいいのか悩んだりしましたが、アドバイスを頂いたりしたおかげで、とても楽しく講習を終えることができました。機会があれば、また沢登り挑戦したいと思います。

(N 村)

昨年初めて沢登りを体験していたものの、どれとして同じ沢はなく新鮮だった。また、同じ沢でも前日までの天候や雨量で随分と環境が変わることを知った。水の深さ、水流の勢い、石の表面の滑り具合、石から石への距離感、ホールドの確かさ…どれも見誤ると危険で、感覚を研ぎ澄まして全身で覚えるしかない気がする。それにしても、溪流は実に美しく普通の登山では味わえないダイナミックさも魅力だ。入渓可能な時が夏の短い期間に限られることも惹かれる理由かもしれない。楽しく学ぶことができました。(S 口)

沢登りは学生の頃に行ったことがあります。足もとの悪い川底でひっくり返ったり、滝の高巻きで滑ったり、ズブズブの靴やパンツで稜線への急登を詰めたりとあまりいい印象はなかったのですが、今回の山行で少し楽しさも味わえたかなと思っています。沢登りの技術は、安全に歩くために石の上や滝の岩面などを見極めるのはなかなか難しいと思いました。今後は少しずつ楽しみながら、沢登りに慣れていければと思っています。講師・スタッフの皆さんありがとうございました。(T 本)



<個人山行報告>

大雪旭岳（2290m）

日時 2022年8月4日
参加者 CL F野、F川（記録）
行程 7:00 旭川ロープウェイ～7:10 姿見駅 7:30～8:10 姿見の池～8:50P2065～
9:45 旭岳頂上～11:15 姿見の池～11:30 姿見駅～12:10 ロープウェイ駅

前日から悪天候が予想され、山頂方向を見ても雲の中だが雨は降っておらず決行することとした。宿で教えていただいた旭岳ビジターセンターの駐車場に駐車し（無料）、ロープウェイ旭岳駅に向かう。ロープウェイの姿見駅を降り、すぐはい松の登山道に入り20分で姿見の池に到着した。しかし頂上付近はガスで全く分からない。幸い低い近くは良く見え地獄谷に数条の水蒸気が立ち上っているのが見えた。それらを眺め、硫黄独特の匂いを嗅ぎ、赤茶けた石がごろごろする道を登る。小一時間のぼり標高が2100mごろを過ぎると、ガスの中に入る。頂上ではガスが切れることを期待して登り続ける。出発から約3時間で頂上に着いた。周りはガスで何も見えないが、そこそこ頂上は広く、家族連れなど数パーティーが飲食して休んでいる。また、黒岳方面、トムラウシ方面に縦走するパーティーもいる。我々は少し休み、写真を撮りすぐ下山に就いた。小一時間ほど下りると、登ってくる女性3名のパーティーに出会った。一人はかわったハッピーを着ており声を掛けた。願いごとを書いてもらい山頂で祈願するとのことであった。我々も白い布帯に願いごとを書くことになり、その記念の写真を撮ってもらう。インスタグラムに投稿するらしい。最後は遊歩道を回り、噴煙口や夫婦岩などを眺めて、トータル5時間半の山行を終えた。帰りの車の中から振り返って見ると、ちょうど頂上の雲が切れて頂上が見えた。



噴煙上げる地獄谷



下山途中で願いごとを書いた帯を持って

羅臼岳 (1661m)

日時 2022年8月6日

参加者 CL F野、F川 (記録)

行程 5:15 木下小屋～7:30 朝食 900H～8:30 羅臼平～11:00 山頂 11:30～13:00 羅臼平～16:00 下山

標高差 1500m以上の日帰り山行ということで我々2人はここ数年では経験がなく、不安であった。そこで、早く出ることとし、4:30 起床し5:15 出発した。それでも山小屋では残り2組のみであった。疲れて登頂出来なくてははじめは樹林帯の中をスローペースで進むが、次から次ぎえと追い越される。すぐ下のホテルやクルマ組が結構登ってくるようだ。これで最初心配したクマは心配ないだろうと安心。2時間ほどでやっと岩場に出て少し展望が良くなった。地元出身という若者(40歳ぐらい??)と会いコースの様子などを

聞いた。更に1時間ほどで羅臼平に到着した。頂上が見え少し元気が出て最後の300mH登り始める。振り返ると羅臼平の向こうに硫黄岳に続く壮大な稜線が見え、しばし癒される。最後の100mHは大きな岩の登りで、かなり難しいところもあった。下りてきた人は劔を思い出したと言っていた。頂上で30分ほど昼食休憩し下



ガスの中の旭岳山頂



木下小屋



羅臼岳中腹より硫黄山方面

山。疲労で不注意にならないよう慎重に下ることに心がけ、景色を楽しみ、ゆっくり進む。途中地元の女性が体調を崩し、我々のゆっくりペースに合わせ同行することになり、いろいろ地元の話が聞けて、思いのほか楽しく進め、往復 11 時間の山行を何とか達成できた。

<一口感想>

木下小屋は素泊まりの小屋で、布団もなくビックリ。我々は幸いにもテン泊装備を持っていたのでシュラフがあり助かった。羅臼岳へは標準タイムは 8 時間 15 分のところ 11 時間かかっており脚の衰えを実感。でも山との付き合いはこれからも続けたい。(F 野)



羅臼平より山頂背に

斜里岳 (1543m)

日時 2022年 8 月 8 日

参加者 CL F 川(記録)、F 野

行程 5:00 ホテル=6:40 清岳荘登山口
~7:15 下二股新尾根コース
分岐~8:30 熊見峠~
8:50P1250~
9:10 竜神池分岐~9:30 上二股
~10:30 斜里岳山頂 11:00~
12:00 上二股~13:00 熊見峠~
14:10 下二股~15:35 登山口



雲間に見える斜里岳

前日駐車場の下見を兼ね登山口まで行き、清岳荘(町営)の管理人から*コースは沢登りで毎年転倒骨折者が出ている、しかし石は酸化鉄で覆われあまり滑らないので注意して進めば問題ない*エゾ松域では木の根が滑りやすい、*クマは出るかもしれないが遭遇しても驚いて逃げたりしないで落ち着いて去るのを待つ、などの丁寧な



風の強い斜里岳頂上で

助言を聞いた。当日朝は 4:00 に起床し、朝食は頼んでおいたおにぎりを受け取り、出発。駐車場で準備をして、雨は落ちていないが、周囲は霧に覆われている状況で 6:40 登山を開始した。ちょっと歩き 20 分ほど林道を歩くと旧登山口に出た。登山道に入って 5 分ほどで沢登りが始まった。そこそこ水があるので滑らないよう、靴の中に水を入れないよう苦労しながら渡渉した。下二股までに 20 回ほど渡渉したところで、たまたま尾根コースの新道に行くことに変更した。こちらは針葉樹林帯の標高差 400m の急登で、つづら折りの木の根の階段道を 1 時間強登り、熊見峠に出た。ここからはほぼ水平なハイキングコースのような快適な道を 1 時間ほど行き上二股に出た。ここからは標高差 300m、1 時間の行程と意を強くし進む。30 分ほどで馬の背に出る。風が強くなってきたが、幸い雲が時々切れる。頂上の眺望を期待して 30 分ほどで山頂に着いた。風の弱いところを探して昼食をとり、20 分ほどで下山開始。上二股から下りも尾根道を帰ることにし、時々切れる雲間の景色を楽しみつつ下る。私は渡渉を考え適当な小枝をストック代わりとして拾い、2 本ストックで沢を楽々と下ることができた。途中溪流で水浴びしたり、楽しみながら下る若い夫婦と前後しつつ、15:35 下山した。

<一口感想>

ガスと強風で迎えられた斜里岳だった。登り始めから渡渉の繰り返しで全く気の抜けない山でした。(F 野)

雌阿寒岳 (1,499m)

日時 2022 年 8 月 9 日

参加者 CL F 川 (記録)、F 野

朝 8:00 斜里町の民宿朝寝坊を出発し、宿の場所を誤ったとぶつぶつ言いつつクルマで国道 241 号から砂利道を約 2 時間走り、標高 800m 近くの雌阿寒温泉駐車場に到着した。

10:10 早速、小雨降る中すぐ横の登山口から出発する。はじめ、登山道でエゾ松の木の間が張り、濡れており帰りに滑らないかと心配しつつ進む。雨は止んだがガスは濃い中 11:10 ほぼ計画のスピードで 3 合目に至る。道は大きな火山岩がごろごろ歩きづらい。このあたりからは松の間を少し回り込むように左にまき、火山岩と砂利の急坂を登る。幸い霧が晴れ 11:50 少し遅れ気味だが 8 合目付近で昼食とした。そのあたりから火口がのぞけるようになり、また、風も強く当たるようになり注意して進んだ。13:10 九合目で風と寒さを心配し雨具を纏い、13:30 登頂した。直径 500m ほどの火口は結構深く、すとんと数百メートル落ち込んでおり、底には水溜が 2 つあった。水は茶色に濁り、前夜雨が降った為と思

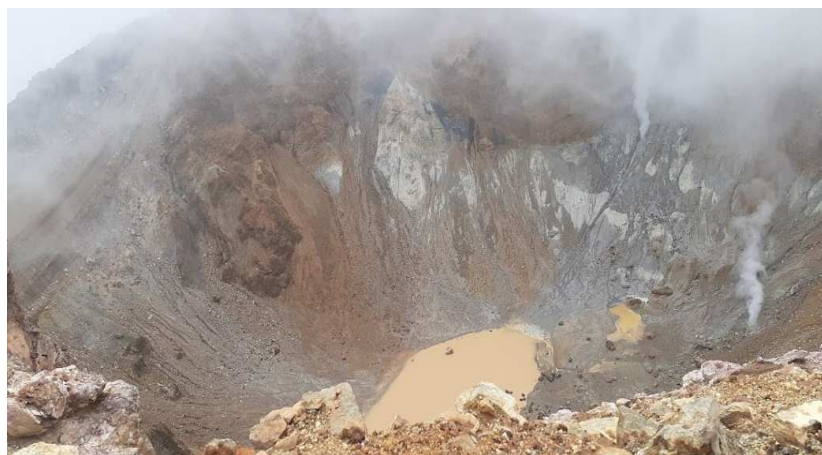
われた。また、蒸気の吹き上がりが数条見えた。さらに、幸運にも北東方向には阿寒湖と雄阿寒岳が望まれた。記念写真を撮り早速下山を始めた。下りは4時間を目安に滑らないよう気を付け、時々景色を楽しみ、16時無事下山した。登山道はよく整備され、はじめは気付かなかったが2合目から9合目まできれいな標識が整備されており、道間違いの心配はほとんどない。

<一口感想>

地図でみたところ民宿から登山口まで2時間もかかるとは。北海道は広い。旭岳、羅臼、斜里、雌阿寒ともそれぞれ雰囲気全く異なる山で、計画した4座に登れてラッキーでした。相棒のF川さんに感謝!!! (F野)



阿寒湖と雄阿寒岳遠景



雌阿寒岳の大きな火口

<個人山行報告>

北アルプス 烏帽子岳～針ノ木岳 縦走

*日時；2022年8月13日(土)～8月16日(火)

*参加者；N尾(CL)・T中利(SL・記録)・S藤（記録）

8月13日(土)

0:00 大津を出発→6:10 高瀬ダムに到着。数日前に発生した台風8号の影響なのか、一帯は霧が立ち込めていて時折小雨が降るといった天候だった。→高瀬ダムから30分ほど歩き、烏帽子岳登山口に到着。→7:00 登山開始。霧も晴れ、少し青空も見えた。しかしながら、このコースは『北アルプス3大急登』の一つに数えられており、烏帽子小屋に着くまで、これでもかというくらい急登が続いた。CLの長尾さんが頃合いを見て適時休憩を入れて下さったのと、ツリガネニンジンやキリンソウなどの高山植物が疲れた体を癒してくれたので、12:45 何とか烏帽子小屋に到着することができた。→小屋にリュックを預け、サブザックに水筒などを入れて烏帽子岳山頂に向かう。山頂までの登山道にはコマクサが可憐な花を咲かせていた。→13:50 烏帽子岳山頂に到着。あいにく山頂は霧に覆われており風も強かったが、その風が一瞬、霧をどこかに追いやってくれた。そのおかげで少しの間ではあったが、山頂から北に針ノ木岳、西に赤牛岳などの主峰をハッキリと捉えることができた。→15:40 烏帽子小屋到着、本日の活動はこれで終了。

8月14日(日)

4:00 起床。簡単に朝食を済ませ5:00に烏帽子小屋を出発。今日も余り天候は良くないと聞いていたが、5:30頃、前烏帽子岳を通過する辺りでご来光を拝むことができた。雲海の美しさにも、朝日を浴びて赤く染まった周囲の山々の美しさにも感動を感じる。いつ来ても山はいい。→6:25 南沢岳に到着。ここから不動岳につながる南沢乗越は崩落が酷く、稜線が非常に狭くなっていた。→8:40 不動岳到着。不動岳から船窪岳に続く稜線も、崩落が激しく、ワイヤーや鎖、梯子などが連続して続いた。→途中、2341のピークや、2299のピークなどで休憩を取り、11:35 船窪第2ピークで昼食、13:45 船窪岳山頂に到着した。→14:15 船窪乗越を超えた辺りで本格的に雨が降ってきたが、今日は今まで降らなかった方がラッキーという空模様だった。→15:55 船窪小屋に到着。本日の活動はここまで。（T中；記）

8月15日(月)

5:00 朝食、ごはん、卵焼き、ウインナー、のり、みそ汁、ミカン缶
船窪小屋の前でスタッフさんに写真を撮ってもらう。

- 6:00 出発 出発するときには、「行ってらっしゃいご無事で。」の言葉と智に勢いよく「カーン！」と鐘を鳴らして頂き、嬉しかった！北の空に雲の中的一条の光を見、東南の方向には雲海に見とれながら、船窪小屋から続く庭園のようなハイマツの道を下っていく。
- 6:52 七倉竹 (2,509m) 到着。ガスが出ていたが山頂から辛うじて隣接する周りの山が6割ほど見える。
- 7:28 北葛岳 (2,551m) 到着。雨が降り出して回り一面はガスで眺望なし。風もでてきた。
- 11:45 所謂蓮華岳に続く蓮華の大下りを我々は登ることになったが、崩れやすい岩層の斜面をロープやくさを手掛かりに…手がかりの無いところも多々あり…。崩落地帯多く、整備は行き届いていない。登る人の少ないマイナーな山域ゆえか…。蓮華岳 (2,799m) に到着するまでのこの道のりがスリリングで長かった。風も爆風となり、あおられて倒れそうになった。やっと着いた蓮華岳山頂も雨風が激しいので少し下った木の茂った斜面で休憩をとる。指先が寒さでかじかむ。カップなどスルーして体は雨と汗でぐちゃぐちゃで、じっとしていると寒くてつらい。低体温症ってこんなふうになるんだろうなと思った。
- 13:15 針ノ木峠、針ノ木小屋着。遅めの昼食後荷物をデポして登っていく。雨風はおさまったが、まわりは一面のガス。が、この曇天のおかげで雷鳥に遭遇できた。上りで5羽、下りで6羽。果たして同じ雷鳥家族だった可能性も…。親鳥も、愛らしいひなたちも人懐こく、カメラを構える我々のすぐそばまでやってきた。
- 15:08 針ノ木岳 (2,821m) 到着。ガスで眺望無し。今回の縦走の最終の山に登頂する。
- 16:43 針ノ木小屋に戻る。
- 17:00 夕食をとる。コロナ対策のため四方の窓を開けた部屋での黙食となる。夕食は、鯖の煮つけ、高野豆腐の煮物、シューマイ、キャベツ添、みそ汁、ご飯、ブドウゼリー、スーパードライ1缶
- 18:00 頃 就寝
- 8月16日(火)
- 5:15 朝食をとる。朝食は、にしんの甘辛煮、キャラブキ、卵焼き、ウインナー、鶯豆、のり、ご飯、みそ汁
- 6:00 出発

- 8:18 針ノ木雪渓通過 カチカチに凍っている雪渓に行く。登る人多く、降りる人は少なかった。
- 9:45 大沢小屋到着
- 11:10 扇沢駅着 タクシーで七倉山荘へ移動する。
- 13:00 入浴をすませて昼食をとる。
- 14:00 七倉山荘出発
- 20:00～ 大津着 (S藤：記)

<一口感想>

この度の縦走を企画して下さったリーダー、同行して下さった皆様に心から感謝致します。北アルプス3大急登のブナ立て尾根、烏帽子田圃、ランプの家の船窪小屋、北葛岳から崩落地を経て蓮華岳へのスリリングなルート、大雨爆風の中の歩き、アイゼンを忘れての雪渓下り（同行のお二人には本当に助けて頂きました！）等など、思い出満載の縦走となりました。また帰りの高速道路での大雨、荒天の中の運転、本当に本当にご苦労様でした。有難うございました。

S藤

今回の縦走も結構きつく感じましたが念願の船窪小屋へも行け、北アのだ真ん中を歩く感じの中々面白いルートでした。途中では劔や槍も見られ花も多かったです。数年ぶりにアルプスを歩いて後立山連峰から裏銀座ルートが大分繋がられたようです。同行の皆様には大変有難うございました。

N尾



開催日		山域・コース	テーマ・内容・	担当者	レベル	備考
9月	3日(土)	畝傍山～香具山 ～耳成山	大和三山	K原	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★☆☆☆☆	交流山行
	11日(日)	牛山、鳶岩	比良探訪	H島	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
	25日(日)	行市山	ちょこっと山行	K藤	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
10月	2日(日)	安楽峠～832峰	鈴鹿縦走(4)	H島	体力 ★★★★★ 技術 ★★☆☆☆	
	8日(土)～ 10日(月・祝)	丹沢山 大菩薩嶺	関東の百名山	N尾	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
	23日(日)	東ヶ谷山	登山祭典 (秋の公開山行)	N村	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
	30日(日)	832峰～小社峠	鈴鹿縦走(5)	H島	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
11月	3日(木・祝)	大橋方面 荒川峠方面	飲み水水質検査 放射線測定	K藤 N村	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
	20日(日)	冠山	福井・岐阜 県 境の山	N尾	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
	27日(日)	小社峠 ～小岐須峠	鈴鹿縦走(6)	H島	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	
12月	11日(日)	小岐須峠 ～水沢峠	鈴鹿縦走(7)	H島	体力 ★★☆☆☆ 技術 ★★☆☆☆	